［令和７(2025)年度　総括評価表］

徳島県立阿南支援学校

自　己　評　価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	担当学部・課	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	今後の改善方策
安心・安全な学校づくり	小学部	（全校レベル） Ⅰ)児童生徒が安心して通うことができる学校づくり Ⅱ)児童生徒、一人一人の人権を尊重した教育の徹底 Ⅱ)事故防止ができる環境整備の推進 Ⅲ)各種の災害に備える防災対策の充実 ＜下位組織レベル＞ ①人権意識を高め、児童一人ひとりの人権を尊重した関わりや指導実践の充実を図る。 ②児童が安全に過ごせるように、環境整備や情報共有を行い、事故防止対策の徹底を図る。	評価指標 ①年度末における学部内アンケートにおいて、「ポジティブな関わりができた」「さん付け呼称ができた」と回答した学部教員が、それぞれ全体の９０％以上になる。 ②年度末における学部内アンケートにおいて、児童の安全や健康に関して「情報共有ができた」「対策ができた」と回答した学部教員が、それぞれ全体の９０％以上になる。 活動計画 ①-1 PBSに関して中・高学年でグループ検討会を行うとともに、学部報告会で学部全体でポジティブな関わり方についての共有を行う。 ①-2「さん付け呼称」について、学部内で定期的に周知を行う。＊小学部段階であるため、学年等に応じて「くん」「ちゃん」等の敬称での呼び方も良しとする。 ①-3 年度末にアンケートを実施し、「ポジティブな関わりができたか」「さん付け呼称ができたか」についてそれぞれ確認を行うとともに、次年度に向けての改善策等を検討する。 ②-1 毎日1回以上、学部長が小学部内の巡視を行い、児童の状況や周囲の環境について確認を行い、必要に応じて担任等と相談し、環境等の改善を図る。 ②-2 学部会や終礼で、各児童に関する安全面等での配慮事項等についての周知を行う。 ②-3 ケガや事故につながる恐れのある事象が起こった場合は、早急にインシデント・アクシデントとして対応し、報告書を作成して改善策を考えるとともに、学部内もしくは学校全体で注意喚起を行う。 ②-4 年度末にアンケートを実施し、次年度への課題や改善策を検討する。	評価指標の達成度 ① １月末にアンケートを実施した。「ポジティブな関わりができたかどうか」については、「できた」と全教員が回答した。「さん付け呼称ができたか」については、７８％の教員が「できた」と回答した。２２％の教員は「できなかった」と回答したが、その中には「〇〇くん等と呼んでいる」などの回答もあった。小学部段階では「〇〇くん」等の敬称も良しとしていることをアンケートに載せていなかったため、敬称で呼ぶ場合はさん付け呼称ができていないと判断した教員も数名いる。それを含めると、「できた」の割合はもう少し上がると思われる。 ②　児童の安全や健康に関して「情報共有ができたかどうか」と、「各クラスや学部内で安全面に関しての対策ができたかどうか」の２点についてアンケートを実施した。どちらも、「できた」と答えた教員が１００％であった。 活動計画の実施状況 ①-1 中・高学年で年間４回程度、グループ検討会を実施した。学部報告会では、検討会で出たポジティブな関わり方等について、各グループが発表し、全体で共有を行った。 ①-2 「さん付け呼称」について、定期的に学部会で周知を行った。 ①-3 １月末にアンケートを実施した。「できた」「できなかった」以外に、意見を記入してもらう欄を設けたが、改善すべき点については特になく、今度も同様の取り組みを継続していけたらと考えている。 ②-1 ほぼ毎日、小学部内の巡視を学部長が行った。クラスを見て児童の様子を確認したり、そのときに児童の状況等を担任と共有するように努めた。 ②-2 学部会では、毎回各クラスから児童の状況等の報告の時間を取り、情報共有を行うようにした。終礼でも同様に、必要に応じて児童に関する情報共有を行った。 ②-3 インシデント・アクシデントになる事象が起こったときは、当日に関係者と対応と改善策を考えて報告書を作成した。職朝や学部会で全体への周知も行い、再発防止を図った。 ②-4 １月末にアンケートを実施した。次年度への課題や改善に関する意見はなく、全員が安全面に配慮した取り組みを行うことができた。	総　合　評　価 （評定） B （所見） ①ポジティブな関わりについては、継続して行っている取り組みということもあり、定着してきたと感じている。「さん付け呼称」については、「できなかった」と答えた教員もいるため、周知が十分ではなかったと思われる。今後、周知の回数を増やすなどして、徹底できるように取り組んでいく必要があると考えている。 ②児童の安全や健康に関して、学部全体で対策を行うことができたと考えている。危険なことや気になることがあったときは、すぐに学部内でも共有することで、事故等を防止することに繋がっている。今後も取り組みを継続して、児童が安心して過ごせる環境作りをしていきたい。	・全国的にいじめや不登校の数は増えてきているが、阿南支援学校の状況はどうか。孤立している子はいないか。 ・今後も、そのような児童生徒が出ないよう注意を払って、教育活動を行ってほしい。	①については、さん付け呼称が十分にできなかったという意見も見られたため、今後も継続して取り組んでいく必要がある。周知の回数を増やし、定期的に各自の関わりを振りかえることができるようにして、さん付け呼称の徹底をしていきたい。小学部段階のため、〇〇くん・〇〇ちゃんという敬称も含めるが、学年が上がるに伴い、少しずつ「さん付け」に移行できるような意識も全体で持って取り組んでいきたいと考えている。 ②については、現状のような取り組みを今後も継続して行っていくことが必要であると考えている。また、何かあったときには、すぐに報告・連絡等の対応を行って、問題解決に努める意識を全体で共有し、児童が安心して過ごせる環境作りに努めていきたい。
	中学部	（全校レベル） Ⅰ)児童生徒が安心して通うことができる学校づくり Ⅱ)児童生徒、一人一人の人権を尊重した教育の徹底 Ⅱ)事故防止ができる環境整備の推進 Ⅲ)各種の災害に備える防災対策の充実 ＜下位組織レベル＞ ①生徒の心理や健康状況について情報共有し、必要に応じて迅速に適切な支援を検討し改善を図る ②生徒一人一人の人権を意識したかかわりや指導実践の充実を図る	評価指標 ①年度末の学部アンケートにおいて生徒状況や改善に向けた対応について「情報共有できた」「適切な対応ができた」と回答した教員がそれぞれ全体の90％以上になる。 ②年度末の学部アンケートにおいて人権を意識した対応について「適切なかかわりや指導ができた」と回答した教員がそれぞれ全体の90％以上になる。 活動計画 ①-1 毎週の学部会と終礼において生徒状況を報告（書面と口頭）し必要に応じて個別的な対応を検討する。 ①-2 アクシデントが起きた際、発見者はすぐに学部長または管理職に報告し対応する。学部長はインシデントアクシデント報告書作成の判断をする。必要に応じて聞き取りを行い管理職と共に再発防止策を検討する。 ②-1「さん」付け呼称を学部内で周知し実践する。 ②-2年度末にアンケートを実施し、達成度の確認と次年度への課題や改善策を検討する。	評価指標の達成度 ①学部会と終礼を隔週ごとに実施し、生徒情報について情報共有を行った。生徒情報をExcelファイルとして記録し、後から共有できるようにした。 ②個別的な人権指導に関する案件では、学部教員で検討し対応に当たった。 活動計画の実施状況 ①ー１学部会と終礼を隔週ごとに実施し、生徒情報について情報共有を行った。また個別対応が必要な生徒については臨時で集会を持って対応を検討し、実践につなげた。 ①ー２アクシデント案件が1件あったが、手続きに則って対応を行った。学部会で情報共有を行った。 ②ー１「さん」づけ呼称を進めた。また学校生活やLINEによる人権に関する指導場面では、個別的な対応を学部教員で検討し、実践を行った。 ②ー２学部会にて達成度を確認し、次年度の課題と改善点について協議した。	総　合　評　価 （評定） A （所見） ①定期的に生徒情報を共有する機会をもち、課題改善に努めることができた。また必要に応じて、管理職の判断のもと進めることができた。事後報告について不十分な事があると思われるため、検討したい。 ②定期的な会において「さん」づけ呼称を教員間で呼びかけることで定着を図っている。人権指導に関する案件が2件あった。関係校務分掌の教員や管理職と情報共有を図りながら個別的な対応を検討し、改善に努めることができた。		①情報共有の機会は今年度と同様のシステムを継続して行う。必要に応じて個別対応を行う。 ②アクシデントに関する事後報告について職員朝礼および文書にて情報共有を行う。 ③個別事例について、対応策を年度当初に関係職員を図示化して情報共有し、適宜対応にあたる。
	高等部	（全校レベル） Ⅰ)児童生徒が安心して通うことができる学校づくり Ⅱ)児童生徒、一人一人の人権を尊重した教育の徹底 Ⅲ)事故防止ができる環境整備の推進 Ⅲ)各種の災害に備える防災対策の充実 ＜下位組織レベル＞ ①　生徒情報の共有及び事故防止対策の徹底を図る。	評価指標 ①　生徒の事故防止対策や健康状態等について、教員間での情報共有ができている。（学部における朝礼と学部会で、毎回情報共有の機会をもつ。必要に応じて終礼を行い、情報を共有する。） 活動計画 ①-1学部長は、１日１回は各学級を回り生徒の状況等を確認するとともに、生徒の登校時の様子について情報共有を行う。 ①-2学部内で、「報告･連絡･相談」を呼びかけるなど、情報共有しやすい環境づくりを心がける。 ①-3けがや事故につながる恐れのある出来事が起きた際、学部長はインシデント・アクシデント報告書作成の判断をする。報告書が必要と判断した際は、聞き取りを行い報告書を作成する。その後、管理職と共に再発防止策を検討する。報告書は全員に回覧し、注意喚起や事故防止対策を徹底する。	評価指標の達成度 ①　生徒の事故防止対策や健康状態等について、学部会及び終礼、学部の職朝連絡時において、情報共有の時間を設定し、学部内に伝達するよう努めた。 活動計画の実施状況 ①-1　朝の登校状況の確認や各学級を巡回することで、生徒の状況を確認した。 ①-2　学部内で、「報告･連絡･相談」を呼びかけ、情報共有しやすい環境づくりを心がけた。 ①-3　インシデント事案が発生した際は、管理職と情報共有を行い、報告書を作成し再発防止策の検討をした。報告書は回覧し、再発防止策に努めた。	総　合　評　価 （評定） B （所見） ①生徒の状況の確認、情報共有、「報告･連絡･相談」の呼びかけ、事故を防ぐ環境設定、事案発生時の再発防止案の検討及び周知を行ったことで、年々インシデント・アクシデント報告の回数が減っている。		①　インシデント事案が減っていとはいえゼロではない。引き続き対応に努め、インシデント・アクシデントが起きないよう体制を整えていきたい。

＊　「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　　Ｂ：概ね達成できた　　Ｃ：達成できなかった